今回、私たちが作成した人工知能「o-shiri」に登場する野獣先輩は2chanに登場する謎の男である。私は、男という条件を大前提に置き、男の特徴である低い声で録音することを心掛け、どこか色っぽく、ミステリアスな雰囲気が漂うように録音した。

録音の仕方についてはe-learningの人工知能1のリンクにある「wavesurfer」を使用して録音を行った。初期段階では色々な辞書に対応させるため音声合成で音声を出力することにしていた。なので、音声の担当である私は「あ」から「ん」までの五十音順を全て録音した。ファイルの保存の仕方もプログラム担当がわかりやすいように「あ」の音のファイルだったら「a.wav」、「ちょ」の音だったら「tyo.wav」と保存した。拡張子も最初は「.smp」

で保存していたがこの拡張子だと特別なアプリでしか音声を再生できないため最初から音声を取り直した。

しかし、音声合成で辞書の内容通りに音声をだすと何を言っているのかがわからないというメンバーの意見から、最終的には音声合成ではなく辞書にある文章をそのまま録音することにした。音声を録音した工夫については、野獣先輩の性格に合わせて音声を録音することをこころがけた。例えば野獣先輩は後輩思いであるが、自分勝手な部分もある性格である。会話に後輩思いの内容が出てきたらいつもの何倍も低い声でかつ色気がある声で録音した。逆に自分勝手な内容が出てきたらいつもの何倍も高い声で録音しわがままな感じが漂うように録音した。このように野獣先輩の性格に合わせて音声を録音することにより本当に会話をしているような、現実感を味わうことができる人工知能が完成した。また私は野獣先輩を見たことがなかったので、野獣先輩を見たことがある班の人からの意見も取り入れ、よりスムーズに音声を録音することができた。

録音の内容については辞書が全部で5つあり、質問文、返答文、問いかけ文、独り言など色々な分の種類があった。最終的な全ての音声ファイルは文章だけを録音したファイルだけで36あり、五十音順も合わせると100以上のファイル数になった。

感想

今回私は音声の担当でしたがとても楽しく作業をさせてもらいました。最初は寄り道したり、パソコンの調子が悪かったりと時間がかかりましたが、時間をかけた分だけやはりいい作品できたと思っています。この班の一員で本当に良かったです。